

2019年12月6日～5日

中村哲医師を悼む

小集団に分裂、潜伏か イスラム勢力争うアフガン・ナンガルハル州

時事通信 2019年12月05日 07時23分



NGO「ペシャワール会」の現地代表、中村哲医師が犠牲になったアフガニスタン東部ナンガルハル州は、反政府勢力タリバンと、過激派組織「イスラム国（IS）」が覇権を争ってきた現場だ。ただ、AFP通信によると、最近ではイスラム武装勢力の全体的な劣勢が伝えられ「小集団に分裂して潜伏している」（同通信）とみられている。

中村さん襲撃時の銃声を聞いたというジャララバードの住民はAFP通信に対し「数人の男たちが狭い路地を逃げていった」と証言した。アフガンの武装勢力は離合集散を繰り返してきた歴史がある。今回の犯行集団を追跡し真の狙いを解明する作業には幾多の困難が伴いそうだ。

一方、タリバンは事件後直ちに声明を出し「中村さんの団体とは良好な関係を保っている」と主張、事件への関与を否定した。アフガン政府や米軍への攻撃しか行わない姿勢を強調するタリバンだが、5月にカブールで起こしたテロでは米拠点のNGO「カウンターパート・インターナショナル」の5人が犠牲になった。急いで疑いを打ち消す必要があったとみられる。



アフガン入りしたトランプ米大統領＝11月28日、カブール近郊バグラム空軍基地（AFP時事）

アフガン情勢をめぐっては、トランプ米大統領が11月28日、予告なしに現地入りし、タリバンとの和平交渉再開を宣言したばかりだ。トランプ氏は来年の大統領選に向けて米軍撤収の実績づくりを狙い、タリバンは外国軍の弱ったアフガンで勢力拡大をもくろむ。

アフガンの混乱は1979年の旧ソ連によるアフガン侵攻から始まった。大国と武装勢力の思惑で、大衆の苦難は終わらないが、底辺の人々を助ける動きも連綿と続いてきた。

長年にわたり支援を続け、現地情勢を知り抜いている日本人の一人だった中村医師でも高い志を持ったまま命を奪われた。支援者が相次ぎ犠牲になるアフガンの治安改善は絶望的に遠い。

中村医師殺害、警備手薄時に銃撃 アフガン、外国人活動萎縮狙いか

2019/12/5 19:26 (JST)12/5 19:50 (JST)updated 共同通信社



殺害された中村哲さんの肖像を持つ男性ら＝4日、アフガニスタン東部ジャララバード（ロイター＝共同）

【イスラマバード共同】アフガニスタン東部で福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表の医師中村哲さん（73）が殺害された事件で、通常は警備車両と一緒に移動している中村さんが、事件当日は自分の車だけで移動していたことが5日、地元警察などへの取材で分かった。警察は、武装集団が事前に中村さんに狙いを定め、警備手薄な移動時に銃撃したとみて捜査している。

アフガンでは外国の支援関係者を狙った事件が相次いでいる。国内で知名度のある中村さんを殺害することで、外国人の活動の萎縮を狙った可能性がある。

アフガンのIS 根絶には至らず 中村さん 計画的に殺害か

東京新聞 2019年12月6日 朝刊

中村哲さん



アフガニスタン東部ナンガルハル州で、人道支援に取り組んできた福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表、中村哲（てつ）医師（73）が四日に殺害された事件は、武装集団による計画的犯行の可能性が強まっている。反政府武装勢力タリバンが「無関係」を強調するなか、同州には過激派組織「イスラム国」（IS）の残存勢力もあり、ISが関与した疑いも出ている。

現地からの報道によると、中村さんは四日午前八時ごろ、車で事業現場に向かう途中で、男数人の集団に自動小銃などで銃撃され、死亡した。殺傷能力の高い武器を準備し、中村さんの通行経路を狙って待ち伏せした可能性がある。

ナンガルハル州はタリバンに加え、ISの地域組織が近年、台頭していた。タリバンは今回の事件直後、「復興支援に取り組むNGOとは良い関係にあり、攻撃の対象ではない」と関与を否定した。

一方、ISについては米軍と政府軍の掃討作戦やタリバンとの戦いで弱体化。アフガンのマスード・アンダラビ内相は先月、「ナンガルハル州でISは敗れた。最後の拠点をまもなく破壊する」と勝利宣言。州知事の報道官も投降者の増加を予想した。

だが、根絶には至っておらず、AFP通信によると、小集団に分かれて残存していると考えられている。（バンコク・北川成史）

外務省、アフガンに職員派遣 中村医師関係者を援護

日経新聞 2019/12/6 11:30

外務省は6日、アフガニスタンで銃撃を受けて死亡したペシャワール会の中村哲医師の家族と同会関係者が同日未明に現地に向けて出発したことに伴い、援護のため海外緊急展開チーム1人をアフガニスタンに派遣した。中村氏の遺体の移送に向け準備する。茂木敏充外相が6日の閣議後の記者会見で発表した。茂木氏は「卑劣なテロ行為を断固として非難し、アフガニスタン関係当局による早急な捜査の進展を期待する」と語った。邦人の安全確保に関し「目的のいかんにかかわらず外務省の危険情報の退避勧告がでている地域への渡航は控えるようお願いしたい」と述べた。

自民「誠に無念」、中村氏死亡で党声明

日経新聞 2019/12/5 20:41

自民党は5日、アフガニスタンで人道支援にあたった医師の中村哲氏が銃撃され死亡したことに「誠に無念」と記した党声明を出した。政府に「真相解明を行い、卑劣で残忍なテロが二度と起きないよう最善を尽くすべきだ」と求めた。二階俊博幹事長は党本部で記者団に「自民党はテロの防止と根絶に全力を尽くす」と述べた。

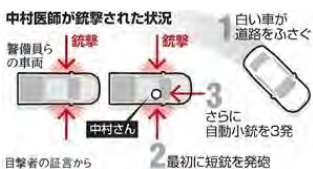
「日本人まだ生きてる」襲撃犯叫んだ後、中村医師に3発

朝日新聞デジタル乗京真知＝バンコク、枝松佑樹 2019年12月5日20時40分



アフガニスタン東部ジャララバードで

4日朝、銃撃された車両。日本の人道支援NGO「ペシャワール会」の現地代表で、医師の中村哲さんらが乗っていた（現地住民提供）



アフガニスタン東部ジャララバードで4日、人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」（事務局・福岡市）の現地代表で、医師の中村哲（てつ）さん（73）が銃撃され、殺害された事件で、襲撃犯らが「日本人がまだ生きてる」と叫んで中村さんを重点的に撃っていたことが、目撃者の証言で分かった。現地で有名な中村さんを殺して他の支援団体も萎縮させ、現地政府に打撃を与える狙いだった可能性がある。

現場は飲食店やホテルが並ぶ幅20メートルほどの路上。住民（40）が朝日新聞現地助手に語ったところでは、4日午前8時ごろ、自動小銃と短銃をスカーフにくるんで持った男2人が様子うかがい始めた。2人は顔は隠していなかった。

そこへ中村さんらの四輪駆動車2台が差し掛かると、不審な白い車が進路を妨害。短銃の男が助手席の中村さんに近づき、宥めに発砲すると、中村さんはダッシュボードに崩れた。

さらに、白い車から降りてきた男たちも撃ち始め、中村さんの運転手や警備員も倒れた。

住民によると、襲撃犯は7人はいたという。住民が動こうとすると、銃口を向けて「近づくな」と威嚇したという。

銃撃がいったん収まると、意識を取り戻した中村さんが頭を上げた。これに男が気づいて「日本人がまだ生きてるぞ」と叫ぶと、自動小銃を持った別の男がフロントガラス越しに3発、中村さんの胸付近を撃った。

男たちは大声で「死んだか？」…

残り：636文字／全文：1219文字

「死んだか？」「全員死んだ」中村さんを組織的に銃撃か

朝日新聞デジタルバンコク＝乗京真知 2019年12月5日10時57分



アフガニスタン東部のジャララバード

で4日、中村哲さんが乗っていた車を調べる警察官＝ロイター
アフガニスタン東部ジャララバードで4日朝、人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」（事務局・福岡市）の現地代表で、医師の中村哲（てつ）さん（73）が銃撃され、死亡した事件で、複数の男が銃撃に加わっていたことが目撃者の証言で分かった。治安当局は、外国人を標的とした組織的な犯行の可能性があるとみて調べている。

現場はジャララバード市東部の飲食店やホテルが並ぶ通り沿い。通りに住む男性が朝日新聞にSNSを通じて語ったところによると、銃撃があったのは4日午前8時ごろだった。車2台が通りに停車し、銃を持った男数人が降りてきた。男たちは、直後に通りかかった中村さんの四輪駆動車を制止し、車内に向けて銃を撃ち始めたという。

住民が四駆に近づこうとすると、男の一人が銃口を向けて「近づくな」と警告した。その後、男たちは大声で「死んだか？」「全員死んだ」などと被害を確認し、自分たちの車に乗って立ち去った。男たちは顔を隠していなかったという。

別の住民によると、銃撃を受けた四駆の窓には穴が開き、座席には血だまりができていた。運転手や警備員ら5人はほぼ即死だったという。

病院の医師によると、中村さん…

残り：357文字／全文：843文字

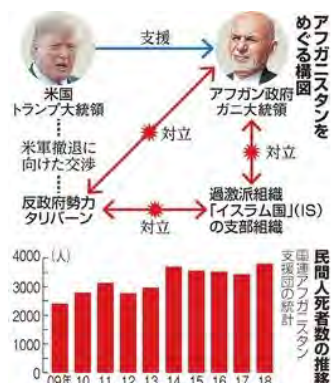
中村医師 若者数人が襲撃か 言葉にパキスタンなまり

朝日新聞デジタルバンコク＝乗京真知、貝瀬秋彦 2019年12月



アフガニスタンでの工事で指揮を執る

中村哲さん(右、2012年12月3日、ペシャワール会提供)

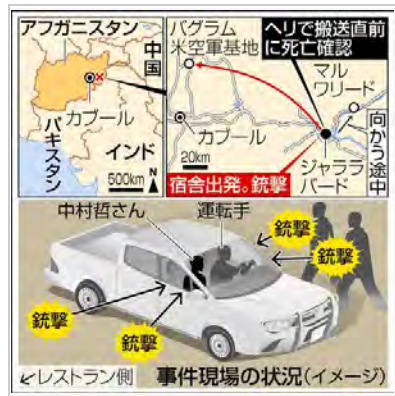


アフガニスタン東部ジャララバードで4日、NGO「ペシャワール会」の現地代表で医師の中村哲さん(73)らが殺害された事件は、目撃者の証言などから、人道支援を続ける中村さんを標的にした犯行の可能性が高まった。だれが、何のために犯行に及んだのか。

目撃者によると、襲撃犯は7人…
残り：1611文字／全文：1732文字

中村医師殺害 「日本人はまだ生きているぞ」さらに銃撃 周到な犯行

東京新聞 2019年12月6日 朝刊



民族衣装姿の男らは車両を挟み、容赦なく発砲を繰り返した。福岡市の非政府組織(NGO)「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲さん(73)らが四日、アフガニスタン東部で殺害された事件。「日本人はまだ生きているぞ」。男らはさらに弾を撃ち込み、生死を確認してから立ち去る周到ぶりだった。当局発表や現地報道から現場の様子を再現した。

事件が起きたのは現地時間四日午前八時ごろ。ナンガルハル州都ジャララバードの宿舎から、約二十五キロ離れたクナール州マルワリードの用水路に向け出発した直後だった。レストラン前の舗装道路を通り掛かったトヨタ自動車の白いピックアップトラック。二台の車に分乗して現場へ来て、待ち伏せしていた男四人前後の武装集団が駆け寄って両側から襲い掛かる。

裾の長い民族衣装「シャルワル・カミーズ」姿で、顔をさらけ出した男らは最初に中村さんのボディガードを殺害。次に進行方向右側の助手席に座っていたとみられる中村さんと、運転手に銃弾を浴びせた。

目撃者の男性は、男の一人から「こちらに来るな」と怒鳴りつけられ、レストランに逃げ込んだ。

銃撃はいったん止まったが、中村さんが頭を上げると、男らは「まだ生きているぞ」と叫び、再び車内に弾を撃ち込む。「誰も生きていないな。終わった。行くぞ」。車に乗り込んで、そそくさと立ち去った。残されたピックアップトラックの周りには赤い血痕が残り、ドアの窓は粉々に砕け散っていた。

中村さんは複数の銃弾を浴び、口や腕にチューブをつながれて担架で地元の病院へ。ペシャワール会事務局に一報が入ったのは直後の日本時間昼だった。当初、中村さんは腹を一発撃たれ、意識があり命に別条はないとの情報だった。後に撃たれた場所が右胸へと変わり、午後になって死亡の悲報が届く。

中村さんが命の危険を感じたことはなかったというが、過去に車を奪われたことはある。「一番危ないのは移動中と認識していた」と同会幹部。同じ道を通らないようにしていたが、小さな町ではルート選定にも限界があったのか。中村さんの死亡が確認されたのは、首都カブール北方のバグラム米空軍基地にヘリで緊急搬送される直前だった。(共同)

4日、アフガニスタン東部ジャララバードで、中村哲医師を乗せた車の銃撃現場を調べる治安当局者＝ロイター・共同



◆政府チーム現地派遣検討

菅義偉官房長官は五日の記者会見で、中村哲さんらが殺害された事件について「卑劣なテロは許されるものではなく、断固として非難する」と述べた。テロなどに対処する政府の「海外緊急展開チーム」の現地派遣を検討していると説明した。

中村さんらの死去について「アフガニスタンの発展に多大な尽力をしてきた方々が犠牲になったことは、痛恨の極みだ」と悼んだ。

中村哲医師殺害 複数の男ら待ち伏せか 計画的犯行の可能性

東京新聞 2019年12月5日 13時50分

アフガニスタン東部ナンガルハル州で四日、人道支援に取り組んできた福岡市の非政府組織(NGO)「ペシャワール会」現地代表、中村哲医師(73)が殺害された事件で、襲撃犯は男数人の武装集団とみられることが分かった。中村さんらを狙った計画的犯行だった可能性も浮上しており、現地警察は逃走した男らの行方を追っている。(バンコク・北川成史)

襲撃は四日午前八時ごろ、州都ジャララバードで、中村さんら

が車で宿舎から事業現場に向かう途中で起きた。目撃者の住民はAFP通信に「銃を持った男たちが日本人らを襲い、細い道を通って現場から逃げた」と話した。

襲撃で中村さんのほか、同乗していた運転手や警備員らアフガン人五人も死亡。中村さんが乗ったピックアップトラックは、側面の窓が割れ、フロントガラスに少なくとも三発の銃弾の痕があった。

男らは自動小銃などで銃撃後、車で逃走したとみられる。強い殺意がうかがわれ、中村さんらの走行経路を下調べした上で待ち伏せし、襲撃した可能性がある。

ナンガルハル州は、反政府武装勢力タリバンに加え、過激派組織「イスラム国」(IS)の地域組織などが活動していた。アフガン政府は十一月、同州でのISの壊滅を宣言したが、治安の不安定さは続いている。

◆家族ら現地渡航へ

ペシャワール会は五日、アフガンで殺害された中村哲さんの遺体はカブール市内に安置されており、妻と長女、同会事務局の計五人が現地へ向かうと明らかにした。早ければ同日中に福岡を離れ、羽田経由で移動する。

襲撃警戒、常にルート変更 死亡の中村医師ら一妻ら6日にも現地へ・アフガン銃撃

時事通信 2019年12月05日13時36分



アフガンで銃撃された医師の中村哲さんが乗っていた車 (AFP時事)

アフガン東部で復興支援を続けてきたNGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師(73)ら6人が銃撃を受け殺害された事件で、中村さんらは移動する際、常にルートを変更し、待ち伏せなどによる襲撃を警戒していたことが5日、同会への取材で分かった。現地の治安当局が襲撃犯の特定を進めている。

中村さんの遺体は首都カブール市内に安置され、中村さんの妻や同会スタッフら計5人が日本に搬送するため、6日にも現地に向けて出発する。司法解剖は現地ですでに実施されたが、福岡県警も遺体が到着次第、検視や解剖を行うとみられる。

同会事務局(福岡市)によると、1984年からパキスタン北西部で医療支援を始め、アフガンへは89年に進出。その後、同国内に診療所を開設するなど活動を本格化させ、農業支援も展開した。

それまで中村さんらは特段の警戒をしていなかったが、2001年の米同時多発テロで治安情勢が悪化したため、移動を宿舎と作業現場に限るなどしていた。08年にスタッフ伊藤和也さん(当時31)が拉致、殺害された事件後は、現地政府側から護衛を付けるよう義務付けられ、中村さんらも常に移動ルートを変えて用心していたという。

同会の福元満治理事(71)は「移動中が一番危ないと認識していたので、同じ道は通らないようにしていた」と明かす。「中村さんを狙ったものかはいくつかは知らない。戦乱と干

ばつが続いているので何が起きようとも覚悟していたが、無念で仕方がない」と語った。

中村さんらは現地時間の4日朝、東部ナンガルハル州のジャララバードから用水路工事現場に向かう車中で銃撃を受けた。

中村さん狙い撃ちか、支援移動中の車両急停止させる

読売新聞 2019/12/06 07:19

【テヘラン=水野翔太】アフガン東部ジャララバードで、民間活動団体(NGO)「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲さん(73)が殺害された事件は5日、武装集団による計画的な犯行だったとの見方が強まってきた。中村さんの遺族らは同日、首都カブールに向けて出発。突然の死を悼む声は国内外で広がっている。

地元ナンガルハル州警察の報道官によると、中村さんらは4日午前8時頃、車2台で農業支援の現場に向かって走行していた。中村さんは運転手と2人で乗り、もう1台に警備員4人が乗っていた。中村さんは助手席に座っていたとみられる。

武装集団は4人で、走行中の2台の車を停止させた後、2人が警備員が乗った車を銃撃し、残りの2人が中村さんの車を襲ったという。警備員を先に殺害したとの目撃情報があり、反撃を封じるなど、あらかじめ計画を練って犯行に及んだ可能性が高い。目撃者への取材によると、武装集団は乗っていた車を中村さんらの車両の前に急停車させて行く手を遮り、銃撃したという。地元当局は、アフガンで有名だった外国人の中村さんを狙い撃ちした可能性が高いとみて捜査を進めている。

報道官は5日、読売新聞の取材に対し、「武装集団は、反政府勢力やアフガンの発展を望まない勢力だ」と述べた。アフガンの反政府勢力は、旧支配勢力タリバンや、イスラム過激派組織「イスラム国」が知られる。タリバンは犯行を否定しており、アフガンで弱体化が進む「イスラム国」が組織の存在を誇示するため、中村さんを狙ったとの見方が出ている。

一方で、ナンガルハル州知事は5日の記者会見で、「襲撃は国外で計画された」と述べ、外国勢力が犯行に関わった可能性を示唆した。現地の専門家によると、水利権を巡る隣国パキスタン側との対立があったといい、中村さんが支援していた用水路建設を巡り、何らかのトラブルに巻き込まれた可能性もあるという。

武装集団、中村医師に狙い定め計画か…警備員を先に銃撃

読売新聞 2019/12/05 12:01



4日、銃撃された日本人医師の中村哲さんを乗せていた車の窓は大きく割れていた(アフガン東部ジャララバードで、ロイター)

アフガン東部ジャララバードで4日、日本人医師で民間活動団体(NGO)「ペシャワール会」現地代表の中村哲さん(73)が殺害された事件で、中村さんを乗せた車を襲った武装集団が警備員を先に銃撃し、その後に運転手と中村さんを撃った可能

性があることが、目撃者への取材で分かった。武装集団が中村さんに狙いを定め、警護のない状態で銃撃できるよう計画を練って犯行に及んだものとみられる。

事件を目撃した住民は、「男たちは警備員を撃った後、日本人と運転手を攻撃した。男たちが去った後に車内を見ると、日本人を除いて全員が死亡していた」と話した。地元当局などによると、事件は4日午前8時頃に発生し、警備員と運転手ら5人が死亡、中村さんもヘリなどで移送される途中で死亡した。

ペシャワール会によると、中村さんは毎日午前7時～8時頃に宿舎を出発し、中村さんを乗せた車を、警備員を乗せた車が前後から挟む形で移動しているという。事件当日は農業支援の現場に向かっていたが、詳しい状況は明らかになっていない。

アフガンを含め各国のメディアは4日、事件を大きく取り上げ、中村さんの功績も伝えた。アフガンの有力放送局トロ（電子版）は、「(ジャララバードが州都である) ナンガルハル州の全ての住民は、中村医師の死を嘆き、彼が長年人々を支えてくれたことに感謝している」とする州知事の話をつづけた。英BBC（電子版）も「アフガン人の生活の改善に生涯をささげた日本人医師が亡くなった」と報じた。（テヘラン支局 水野翔太）

警備薄い移動時に銃撃 中村医師殺害、活動萎縮狙いか

日経新聞 2019/12/5 18:09

【イスラマバード=共同】アフガニスタン東部で「ペシャワール会」の中村哲医師（73）が殺害された事件で、通常は警備車両と一緒に移動している中村さんが、事件当日は自分の車だけで移動していたことが5日、地元警察などへの取材で分かった。警察は、武装集団が事前に中村さんに狙いを定め、警備手薄な移動時に銃撃したとみて捜査している。

アフガンでは外国の支援関係者を狙った事件が相次いでいる。国内で知名度のある中村さんを殺害することで、外国人の活動の萎縮を狙った可能性がある。

ペシャワール会は4日の記者会見で、中村さんの移動時は1、2台の警備車両が同伴し、毎回ルートを変えながら移動すると説明していた。武装集団は最初にボディガードを殺害したことも目撃証言で判明しており、内部事情に通じた者が関与した疑いもある。

事件が起きたナンガルハル州では、米軍など外国部隊のアフガン駐留を「占領」と非難する反政府武装勢力タリバンなどが活動。外国の援助に頼るアフガン政府に打撃を与える目的もあって、たびたび支援関係者を標的としてきた。11月には、首都カブールで国連車両を狙った爆発が発生し、米国人の国連スタッフ1人が死亡した。

中村さんは長年の支援活動を評価され、10月にアフガン政府から名誉市民権を授与されるなど、国内で広く知られている。一方、関係者によると、過去には水利権などを巡り、中村さんが手掛ける用水路事業に対する不満が一部であったといい、警察が関連を慎重に調べている。

遺族らアフガンへ出発 中村さん遺体、9日にも帰国

時事通信 2019年12月05日20時20分

アフガニスタンで銃撃され死亡したNGO「ペシャワール会」

（福岡市）現地代表の中村哲医師（73）の遺族らが5日夜、遺体が安置されている首都カブールに向け、福岡を出発した。

現地に向かったのは妻尚子さん（66）や長女秋子さん（39）、同会スタッフの計5人。6日未明の羽田空港発の便でドバイを経由して現地入りし、中村さんの遺体と対面する。遺体は9日にも帰国し、福岡県警が司法解剖して詳しい死因を調べるとみられる。

中村哲さん遺族らアフガンへ 6日に到着、9日にも帰国

2019/12/5 22:50（JST 共同通信社）



記者会見する NGO 「ペシャワール会」

の福元満治広報担当理事（左）ら＝5日夕、福岡市

アフガニスタンで福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」の現地代表で医師の中村哲さん（73）が殺害された事件で、同会事務局は、中村さんの妻尚子さん（66）と長女秋子さん（39）、現地の状況を知る関係者の計5人が5日夜、福岡空港を出発し、羽田経由でアフガンの首都カブールに向かったと明らかにした。

事務局によると、アラブ首長国連邦（UAE）を経由し、現地時間6日午後2時半（日本時間同7時）ごろ、カブールに到着。家族は遺体とともに日本時間9日午前に福岡空港へ戻る予定だ。

福元満治広報担当理事は「現地の司法解剖は終わったようだ」と述べた。



アフガニスタンの首都カブールに向かうため、経由地の羽田空港に到着した中村哲医師の妻尚子さん（左）ら＝5日午後9時40分

ペシャワール会 アフガン支援事業継続へ 来年2月、中村さんお別れの会

毎日新聞 2019年12月5日 21時51分（最終更新 12月5日 21時51分）



記者会見で中村哲医師について語るペシャワール会

の福元満治・広報担当理事（手前）と古川正敏・事務局長＝福岡市中央区で2019年12月5日午後5時31分、津村豊和撮影

ペシャワール会は5日夕、記者会見を開き、アフガニスタンで

の支援事業を今後も継続すると明らかにした。理事や事務局員約40人で緊急会議を開き、継続を確認したという。現地では職員100人と作業員約200人が働いている。福元満治広報担当理事は「(中村さんへの) 供養は事業継続と思う。構想力を持って統括できたのは中村医師。そういう人間を今から育てる必要がある」と述べた。



記者会見で中村哲医師について語るペシャワール会の福元満治・広報担当理事(左手前)＝福岡市中央区で2019年12月5日午後5時、津村豊和撮影

また、同会は来年2月にお別れの会を開く予定。【杵谷健太】

中村哲さんの遺族ら、今夜にもアフガンへ出発 襲撃事件

朝日新聞デジタル2019年12月5日12時32分

アフガニスタン東部のジャララバードで4日、人道支援に取り組むNGO「ペシャワール会」(事務局・福岡市)の現地代表で医師の中村哲さん(73)が銃撃され死亡した事件で、ペシャワール会は5日午前、遺族や会関係者が早ければ同日夜にも現地へ向け出発することを明らかにした。

会事務局によると、中村さんの遺体は首都カブールに運ばれ安置されている。中村さんの妻と長女、事務局3人の計5人が現地へ向かうという。

中村哲さん、最後の講演 即座に答えた「物差し捨てて」

朝日新聞デジタル奥村智司 2019年12月5日11時58分



JICA九州でアフガニスタン政府の職員に灌漑事業などについて話す中村哲さん＝2019年11月19日午後1時42分、北九州市八幡東区、奥村智司撮影



アフガニスタンで4日に殺害されたNGO「ペシャワール会」の現地代表・中村哲さん(73)が最後に帰国したのは11月中旬。滞在中、水資源の確保や管理についての研修のため国際協力機構(JICA)九州(北九州市八幡東区)を訪れていたアフガニスタン政府の職員5人に灌漑(かんがい)事業などについて講義をしたのが、日本での最後の講演となった。

11月19日、北九州市内であった。中村さんが強調したのは、現地を尊重する支援のあり方。英語で説明を始めたが、話が熱を帯びると現地のパシュトゥー語を流暢(りゅうちょう)に操り、2時間語り続けた。「私たちが貰ってきたのは、なるべく地元の素材を利用し、地元のやり方で、そこの人々の手を借りて、ロー

カルの力を活用すること」。研修員に「自分の国にあるものでどう工夫ができるか、徹底してお考えになって努力して頂きたい」と訴えた。

講演を一緒に聴いていた日本国…

残り：374文字／全文：752文字

中村さん悲報 「先生も、息子も、なぜ」08年犠牲 伊藤和也さん両親

東京新聞2019年12月6日 朝刊

アフガニスタンで活動する中村哲さん(右から3人目)と伊藤和也さん(左から2人目)＝2004年(伊藤正之さん提供)



非政府組織(NGO)「ペシャワール会」の医師中村哲(てつ)さん(73)がアフガニスタンで殺害された事件を受け、同会の農業支援スタッフとしてアフガンで活動中の二〇〇八年八月に拉致され、銃で撃たれて死亡した伊藤和也さん＝当時(31)＝の父正之さん(72)と母順子さん(67)が五日、静岡県掛川市の自宅で報道各社の取材に応じた。「アフガンが大好きで、現地のために尽くしてきた人がこんな形で帰らなければならないなんて」と語り、中村さん殺害に悔しさをにじませた。(赤野嘉春)

伊藤さんは、アフガンで中村さんと水路の建設や農作物の栽培指導に取り組んだ。伊藤さんの死後、中村さんは法要で掛川市の正之さん夫婦を訪ねることもあった。

正之さんは「悲しみや怒り、いろんなものが頭の中で混在し、昨夜はよく寝れなかった」と語った。「人が行かないところで、人がやらないことを強い意志で続けてきた」と中村さんをたたえ、活動が無にならないよう「現地の方がしっかり引き継いでほしい」と願った。

順子さんは「なぜ(中村)先生も和也もこんなことになるのか。こんな別れ方をしなければならぬのか。怒りが収まっていない」と話した。今も二人が現地で活動を続けているような気がすると言い、中村さんの死を和也さんに報告できていないという。

中村さんとは二年前に静岡市で食事をし、一緒に現地に行く約束をしたという。正之さんは「僕がいる間にお父さんとお母さんをアフガンにお連れしますと言ってくれた」と振り返り、順子さんも「家族みんなで行こうとしていたのに、思いが断たれた」と涙ながらに語った。

「アフガニスタンは、真の英雄を失った」カブールなどで中村哲さん追悼集会

毎日新聞2019年12月6日10時08分(最終更新 12月6日10時08分)



中村哲さんの追悼集会で掲げられた

日本語のポスターの前でろうそくを立てるアフガニスタン人の男性＝カブールで5日、AP

アフガニスタン東部ナンガルハル州ジャララバード近郊で4日に殺害された福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表の中村哲さん(73)を追悼する集会在5日、首都カブールやジャララバードなどで開かれた。

市民の間では、中村さんの功績を後世に伝えるため、政府に対して学校に中村さんの名前を付けるよう求める動きも出ている。

「アフガニスタンは、本当の息子で真の英雄を失った」「あなたは一人のアフガン人と生き、そして亡くなった。守ることができずすみません」。集会では、こう書かれたポスターや写真などが掲げられ、多くの市民が中村さんへの感謝の言葉を書いた紙や、日本とアフガンの国旗などを持って参加した。

カブールに住む男性は地元メディアに「犯行を強く非難する。容疑者を逮捕して、裁きを下してほしい」と話した。【ニューデリー松井聡】

【報ステ】中村哲さん銃撃事件…アフガンで追悼集会

ANN2019/12/05 23:30

アフガニスタンで何者かに銃撃されて死亡した中村哲医師(73)の追悼集会在現地が開かれた。集会に来た人は「私たちは非常に悲しんでいる。中村さんは誇りであり、大切な仲間。犯人はこの国の敵だ」などと話し、中村さんの死を悼んだ。現地では中村さんの殺害は計画的犯行だったとの見方が強まっている。ある目撃者によると、犯人グループは車2台で待ち伏せをし、中村さんたちの車を止めて銃撃したという。さらに、中村さんの生死をその場で確認していたとの証言も出てきた。この目撃者は「ドライバーとボディーガードと日本人が撃たれた。その後、日本人が頭を上げた時に犯人が『1人生きている』と叫んで、また3発撃たれた」と話す。今、現地で有力視されているのは“水戦争に巻き込まれた”という説。中村さんは用水路を建設し、農業の復興を支援してきた。中村さんの友人は「用水路は2つの地域にまたがって作られたが、元々、砂漠だった場所。水が通り豊かになり、2つの地域で土地の取り合いが起きた。その原因を作った人として、中村さんが恨みを買った可能性がある」と話す。

アフガニスタン大統領「決して忘れない」 中村医師の貢献に謝意

時事通信 2019年12月05日20時24分



5日、カブールで、ろうそくをととも

し中村哲医師を追悼するアフガン市民ら (AFP時事)

アフガニスタンのガニ大統領は4日、同国東部で中村哲医師が殺害されたことを受けて声明を出し、用水路整備や農地再生などに関わった中村医師の貢献を「アフガン国民は決して忘れない」と述べ、哀悼の気持ちと謝意を表明した。

声明は、このような犯罪やテロ、恐怖によって「国民や国際的なパートナーが抱くアフガン発展への強い意志と希望が弱まることはない」と強調。事件の犯人を特定し、処罰するよう関係当局に指示したと明らかにした。

一方、在アフガニスタン米大使館も4日、中村医師殺害に日本語で「哀悼の意」を表明した。同大使館はツイッターで、「中村医師の遺産は、彼の思いやりや献身を受けた無数のアフガンの人々の中で生き続ける」と功績をたたえた。

JNN2019年12月5日17時32分

中村医師“狙い撃ち”か? 国際社会に広がる悲しみ

銃撃された中村哲医師。SNSにはアフガニスタンから「Sorry Japan」「ごめんなさい日本」とのタイトルで、死を悼むコメントと肖像画が多数投稿されています。長年、現地の復興を支援し、“恩人”とも呼ばれてきた中村医師はなぜ、銃撃されてしまったのでしょうか。

アフガニスタンで志なかばで命を落とした中村哲医師。銃撃が起きた東部ジャララバードでは、追悼集会在行われました。その写真には・・・

「アフガニスタン人として生き、アフガニスタン人として死んだ」

「あなたを守れなくて申し訳ない」

悲しみと怒りは国際社会にも広がっています。

「アフガニスタンの最も立場の弱い人々を助けることに人生の大半をささげた人への分別のない暴力行為だ」(国連ドゥジャリク事務総長報道官)

車で移動中に襲撃された中村医師。その現場を目撃した人は・・・

「日本人が乗った車が着くと、犯人らが日本人らに向かって銃撃を始めた。銃撃のあと日本人は頭を上げたが、犯人の1人が『まだ生きていぞ』と叫び、もう一度彼に向けて撃ったのだ」(現場を目撃した人)

強い殺意から計画的に狙い撃ちをされたという見方も浮上しているこの凶行。アフガニスタンのガニ大統領が「テロ行為」と明言しましたが、東部での活動が活発な反政府武装勢力「タリバン」は関与を否定しています。

一方、イギリスのテレグラフ紙はアフガニスタン当局者の話として、中村さんがパキスタンとの国境付近でかんがい事業を行っていたことから、銃撃は水の利権をめぐるものだった可能性があると伝えています。

「アフガン人に恩恵」大統領、中村さんへ感謝のツイート

朝日新聞デジタル梶原みずほ、佐藤達弥 2019年12月5日11時51分

アフガニスタンで殺害されたNGO「ペシャワール会」の中村哲さん(73)の事業を「復興のモデル」とたたえ、勲章や名誉

市民権を贈ったアフガニスタンのガニ大統領は事件後、自身のツイッターに中村さんと写った写真を投稿した。「中村医師は大勢のアフガン人に恩恵をもたらした」と感謝の言葉を添えた。

中村さんの死は海外メディアでも相次いで取り上げられた。

米ワシントン・ポスト電子版は中村さんの長年の活動を紹介し、「農場や小さな町。いつ行っても昔と変わらない生活がある。私たちの頑張りや、ここの人々の涙や笑いとともにある」という本人の言葉をつづった。

何百人ものアフガニスタン人が…

残り：320文字／全文：591文字

中村さんの貢献評価、偉大な友人 アフガン、市民ら追悼

2019/12/5 17:52 (JST)12/5 18:23 (JST)updated 共同通信社

アフガニスタンを支援してきた医師中村哲さんの殺害を受け、東京のアフガン大使館は5日までに「アフガンの偉大な友人で、生涯を国民の生活を変えるためにささげてくれた」と貢献を評価し、「大変悲しみに包まれています」とする声明をホームページに掲載した。殺害現場のジャララバードでは4日夜、多くの市民がろうそくをともして追悼した。

大使館は「かんがいシステムが改善され、伝統的農業が変わった」と中村さんの献身ぶりに感謝を表明した。

国連のドゥジャリク事務総長報道官は4日、「最も立場の弱い人々を助けることに人生の大半をささげた人に対する、分別のない暴力行為だ」と非難した。

しんぶん赤旗 2019年12月6日(金)

中村医師死去に哀悼の意 志位委員長「憲法9条を体現」

日本共産党の志位和夫委員長は5日の記者会見で、アフガニスタンで人道支援に取り組んできた医師の中村哲氏が現地で銃撃され死亡した事件について、「たいへんに悲しい思いでニュースを聞きました」と述べ、「心からの哀悼の意」を表明しました。

志位氏は、中村氏が大きな危険を伴うなかで、医療や農業などの非軍事の支援に取り組んできたことについて、「憲法9条に基づく国際貢献とは何かということをもつて体現された方だった」と振り返りました。

その上で、自衛隊の海外派兵の動きが起きたときに、中村氏が“日本のNGOによる非軍事の活動が逆に危険にさらされる”として強く反対し、その立場から「しんぶん赤旗」のインタビューに応じて何度も紙面に登場したことは「たいへんに心に残っている」とのべ、中村氏を失ったことは「世界にとっての損失だ」と語りました。

中村哲医師 死去 政界の反応

NHK2019年12月5日 16時32分



アフガニスタンで長年、人道支援と復興に携わってきた医師の中村哲さんが銃撃され死亡した事件についての政界の反応です。

菅官房長官「断固として非難」



菅官房長官は午前の記者会見で「中村医師を含む方々が犠牲となったことは痛恨の極みだ。今回の卑劣なテロは許されるものではなく、わが国は断固として非難し、今後とも日本人の安全確保のために全力を尽くしていくとともに、アフガニスタンの平和と発展のために引き続き貢献していきたい」と述べました。

また、日本政府の対応について「警察庁含む関係機関が連携して情報収集につとめているが具体的な対応を答えることは差し控えたい。また、海外緊急展開チームの派遣を含む支援の在り方は検討中だ」と述べました。

自民 岸田政調会長「日本人が命かけて頑張っている」



自民党の岸田政務調査会長は、派閥の会合で、「中村さんの大きな功績を改めて振り返り、敬意を表し、ご冥福をお祈り申し上げたい。国際社会では厳しい現実が存在し、日本人が命をかけて頑張っている。今後、中東への自衛隊派遣の問題など 国際社会との関わりを政治の立場から真剣に考えていかないといけない」と述べました。

自民 二階幹事長「テロを断じて許せない」

自民党の二階幹事長は記者団に対し「誠に無念で、ご家族の心中を思うと大変胸が痛む。何の罪もない尊い生命を奪う卑劣で残忍なテロを断じて許すことはできない。政府は、真相究明を徹底的に行い、このようなテロが二度と起きないように、最善の努力を尽くすべきだ」と述べました。

国民 渡辺氏「貴重な意見いただいた」



国民民主党の渡辺周外交・安全保障調査会長は「国会で参考人として証言し、当時の民主党でも貴重な意見をいただいた。『何をしてはいけないか。殺してはいけない、戦争に関わってはいけない』という直接いただいたことばを思い起こし、世界の平和と日本国民の安全のためにどのような行動をとるべきか、常に考えなければならぬ。われわれがきちんと役割を果たすことをお誓いし、心からご冥福をお祈りしたい」というコメントを発表しました。

公明 山口代表「志を共有し努力を」



公明党の山口代表は、党の中央幹事会で「私も中村さんに会って話を聞いたことがあるが、アフガニスタンの貧しい人々を助けるために支援してきた方で、銃撃で命を奪われたことは許しがたい。アフガニスタンの復興と安定を作り出すため、中村さんの志はこれからも消えることなく、多くの人が共有し、努力していく

べきだ」と述べました。

共産 志位委員長「世界にとって損失」



共産党の志位委員長は、記者会見で「中村さんは憲法9条に基づく国際貢献とは 何なのかを身をもって体現された方だ。自衛隊の海外派遣の動きがあった際には、『非軍事の国際貢献が危険にさらされる』として、必ず反対していたのが大変心に残っている。中村さんを失ったことは、世界にとって損失だ。心から哀悼の意を表したい」と述べました。

「20年構想の矢先、無念」 用水路技術伝えた名工、中村さんの死悼むー福岡・朝倉

時事通信 2019年12月06日07時08分



整備を支援した用水路の前に立つ中村哲

医師＝2005年8月10日、アフガニスタン東部（ペシャワール会提供）

アフガニスタンで銃撃され死亡した医師中村哲さん（73）は、大干ばつが深刻化していた同国に画期的なかんがい用水路を建設したことで知られる。そのモデルとなったのが、福岡県朝倉市の「山田堰」。中村さんに技術の根幹を伝えるなど親交の深かった山田堰土地改良区理事長の徳永哲也さん（72）は、「先月、アフガンの今後20年の構想を話し合った矢先だった。無念で悔しすぎて、言葉にならない」と同志の最期に声を振り絞った。

中村さんは日本に帰国中、故郷の福岡で偶然山田堰の存在を知り、現地を訪れた。大がかりな重機を使わず、筑後川の水流に対して斜めに石畳を敷き詰めることで、自然に清潔な水を行き渡らせる。国内唯一の構造で、改修を重ねながら、江戸時代から230年近く継承されてきた。

「私が初めてお会いしたときには、既に医者とは思えない知識と構想を持っておられた。信じられない人だった」と振り返る徳永さん。アフガニスタンに技術を持ち帰った中村さんは2003年、自ら工事を指揮し、7年がかりで約25キロに及ぶ荒地に用水路を導き、1万6500ヘクタールもの農地をよみがえらせた。

中村さんは「これだけの歴史があるから、壊れにくく洪水にも強い。重機も使わず、現地の人たちでも維持していける」と山田堰の技術にほれ込んでいたという。難民や兵士になりそうだった住民らが農業で生活するようになり、口癖だった「3度の飯と家族の暮らし」という支援目標も徐々に浸透していった。

徳永さんは先月、中村さんの帰国中に、新たな用水路計画を柱とした「アフガンの20年構想」を語り合ったばかりだったという。「まだまだこれからというところだった。ショックなんでものじゃない」と悲しみと怒りを抑えつつ、「現地で先生の遺志をつないでいくことに力を尽くしたい」と前を向いた。

「貴重な人を亡くした」 中村医師の同級生らー福岡

時事通信 2019年12月05日20時32分



中村哲医師の死亡を受け、記者会見する久保千春九州

大学長＝5日午前、福岡市西区

アフガニスタンで銃弾に倒れた中村哲医師（73）の同級生からは死亡の報を受け、「貴重な人をなくした」と惜しむ声が続いた。

中村医師と九州大医学部で同級生だったという久保千春九州大学長は5日、記者会見を開き、「私の人生の指標となっていた人。大変残念」と悼んだ。大学生時代、無医村などで医療活動の手伝いをするボランティアに中村医師と参加した思い出を語り、「普段は穏やかな人だが、恵まれない人を救おうという信念がある人だった」と振り返った。

最後に会ったのが、10月下旬の同窓会。中村医師は「同窓生に会うためだけにアフガニスタンから来た」と話したといい、「同級生でもある中村さんを亡くした衝撃は大きい」と声を落とした。

西南学院中学（福岡市）で同級生だった和佐野健吾さん（72）も「何ともいいようがない。やり残したことがあったらうら」と悔しさをにじませた。中村医師は同級生から「哲ちゃん」と慕われ、「物静かで、誰からも好かれる人だった」という。「哲ちゃんは自分たちの誇りだった。こういう人は今後出てこないかもしれない」と沈痛な思いを語った。

「アフガン人として生きた」 地元関係者ら中村さん悼む

朝日新聞デジタルバンコク＝乗京真知 2019年12月5日11時00分



アフガニスタン東部ジャララバード

で4日、銃撃された中村哲さんの追悼式を開いた地元援助団体のメンバーら。「あなたはアフガン人として生き、アフガン人として死んだ」とのメッセージを掲げている（参加者提供）



アフガニスタン東部ジャララバードで4日朝、人道支援に取り組んできたNGO「ペシャワール会」（事務局・福岡市）の現地代表で、医師の中村哲（てつ）さん（73）が銃撃され、死亡した事件で、中村さんが殺害されたアフガニスタン東部ジャララバードでは4日夜、中村さんの追悼集会が開かれた。参加者によると、地元のNGOのメンバーら100人近くが、ろうそくに灯をともして「中村さんは懸命に働き、（灌漑（かんがい）事業で）

砂漠を天国の庭のように変えてくれた」「一刻も早く犯人を捕まえて欲しい」と訴えた。

参加者は中村さんの遺影や似顔絵とともに「あなたはアフガン人として生き、アフガン人として死んだ」とのメッセージを掲げ、マイクを回して次々と追悼の言葉を贈ったという。

日本のNGO「日本国際ボランティアセンター」(JVC)と連携し、現地で平和構築に取り組むサビルラ・メムラワルさん(43)は朝日新聞の電話取材に「中村さんが救急車で運ばれるのを見送ったのが最後だった。地元で中村さんの偉業を知らぬ者はいない。無念でならない」と話した。(バンコク=乗京真知)

「医療だけで命救えない」 中村哲医師が残した足跡

ANN2019/12/05 21:34

アフガニスタンで凶弾に倒れた医師・中村哲さん。突然の訃報を受け、世界各地で死を悼む声が上がっています。首都カブールでは市民らが追悼式を開き、「心の中に何百年と残り続ける」と語る人もいました。

4日、中村哲医師の遺体はNATO(北大西洋条約機構)の兵士たちによって軍用ヘリで首都カブールに移送されました。アフガニスタンで30年にわたって医療や農業用水路の建設に携わってきた中村さん。襲撃を受けたジャララバードをはじめ、各地でろうそくに火をともした市民が追悼に集まっています。「あなたを守ることができず、申し訳ありません」と書かれた市民のメッセージが捧げられていました。

中村さんの地元である福岡でも悲しみとショックが広がっています。去年、中村さんが講演を行った母校の福岡高校では弔意を表す半旗が掲揚され、全校生徒で黙祷(もくとう)を捧げました。

現地では長年の支援活動に敬意を表し、市民の手によって石碑が建てられていました。アフガニスタンで一緒に医療支援を続けてきた医師は中村さんの突然の死に悲痛な思いを打ち明けます。

アフガニスタン出身、NPO法人カレーズの会、レシャード・カレット医師:「荒地だった所が3、4年後に彼と一緒にいったら真緑になっていたことが驚きで『よくやったね中村さん、こんな所まで』と言ったら『いや、やったのは俺じゃない。皆なんだよ』『俺はただ道を作ってあげただよ』って。命まで落とされるのは本当に気の毒だし、申し訳ない気持ちがあります」

中村医師銃撃死、支援者ら「信じたくない」

日経新聞 2019/12/5 8:46

福岡県出身の中村哲さんは、同県朝倉市を流れる筑後川に江戸時代に築造された「山田堰(ぜき)」を参考にアフガニスタンでの灌漑(かんがい)事業を進めていた。十数年前から熱心に足を運ぶ姿に感銘を受け、助言をしてきた山田堰土地改良区の徳永哲也元理事長(72)は死去の知らせに「うそだ、信じたくない」と声をうわずらせた。



建設コンサルタント会社「テクノ」が実施

した、アフガニスタンの技術者への研修に参加した中村哲さん(中央)(9月、福岡県朝倉市、同社提供)＝共同

今年4月にはアフガニスタンに招待され、完成した灌漑施設を見学した。11月に中村さんが帰国した際には福岡市内で会い「これからもサポートしていきたい」と伝えただけだった。土地改良区職員、田中真子さん(56)は「偉い人なのに気さくでここにこしていた。小柄な人でどこにそんなパワーがあるのかと不思議なくらいだった」と振り返った。

中村さんは灌漑事業を長期的に継続させるため、現地の技術者を日本に派遣し、山田堰で研修を受けさせていた。指導に関わった同県久留米市の建設コンサルタント会社「テクノ」社員の樋口孝さん(52)は、中村さんも「土木の専門家じゃないから」と一緒に参加した姿を思い出す。

「砂漠地帯に緑の農地が生まれ、週末に家族連れが集まり屋台が出るんだ」とうれしそうな表情を見せたことも印象的だったとし「自分のことは二の次に考える人だった」と死を惜しんだ。

中村さんは、燃料が不要で修理が簡単な日本の伝統的な農具をアフガニスタンで役立てようと、朝倉市の甘木歴史資料館にも足を運び、「足踏み脱穀機」などを視察していた。浦塚武実館長は「やりたいことがたくさんあった人なのに非常に残念だ」と語った。昨年、同県大牟田市で開催された現地報告写真展に携わった人形店社長、沖牟田龍雄さん(74)は「アフガニスタンへの思いが強く、『アフガンのためなら死んでもいい』と言っていた。本当に亡くなってしまうなんて」と悲しんだ。

〔共同〕

中村哲さん 不滅の遺志 ペシャワール会「継続が供養」

西日本新聞 2019/12/6 6:00

「圧倒的存在」失い 試練

アフガニスタンで凶弾に倒れた福岡市の非政府組織(NGO)「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師(73)は、かんがい事業の中心的役割を現地で一手に担い、活動資金集めにも奔走してきた。圧倒的な存在を失った今、どのようにして活動を引き継いでいくのか。残されたメンバーは「事業の継続が一番の供養」と決意を固めながらも、大きな壁に直面している。

「どうすればいいか。最も相談すべき人がいない」。アフガンでの銃撃事件から一夜明けた5日、会見した福元満治・広報担当理事(71)の声には悲痛さがにじんだ。

自ら用水路の図面を引いて現場で作業を指揮し重機も操縦した中村さん。州政府や住民と話し合って事業への理解を求め、2010年には住民の心のよりどころとなるモスク(イスラム教礼拝所)やマドラサ(イスラム神学校)まで建設した。

治安情勢を踏まえ、継続的に現地に駐在してきた日本人は中村さんだけ。活動を共にしてきたのは「ドクター・サブ」(先生様)と慕う、現地の非政府組織「PMS」(平和医療団)のアフガン人スタッフたちだ。長年にわたって築いてきた地域との信頼関係を礎に、現地で果たしてきた役割には代わりがない。

現地の活動を資金面で支えるのは、ペシャワール会に日本各地から寄せられる寄付と、約1万3千人の会費。中村さんは一時帰国するたびに積極的に講演し、活動を報告してきた。話す内容はほぼ同じで、自身も「金太郎あめ」と認めていたほど。それでも

各地で聴衆が列をなすほど盛況なのは、活動の意義深さに加え、木訥（ぼくとつ）な人柄に引かれる人が多かったからだ。

設立当初を知る男性会員は「会はもともと、中村哲のファンクラブ的な色彩が強い」と話す。そもそも、会則が定める会の目的もアフガンなどでの「中村哲医師の活動の支援」だ。

◆ ◆
「年齢的にも衰えは感じる。いつまでも居座るのはかえって無責任でしょう」。中村さんは生前、そう語っていた。自ら描いていた「ポスト中村」の構想は、現地で活動するPMSの自主自立、自給自足を段階的に達成していくことだった。そのための布石も着実に打っていた。

昨年1月には現地に訓練所を開設し、熟練工を組織的に育成する計画をスタート。17年からは年に2回のペースでPMSのスタッフを日本に招き、研修を実施してきた。日本国内の支援者と現地スタッフが「顔の見える関係」を築けるようにする配慮だった。専従職員を増やすなどして日本側の体制も強化した。

それでも、完全な一本立ちにはまだ時間が必要だった。日本の伝統技術を用いて効率的な用水路の維持、補修を可能にした「PMS方式」はアフガン政府から絶賛され、活動地域を拡大する方針も決定。重要な局面は今後も続く見通しだった。

失った存在の大きさは計り知れない。福元理事は「これまで以上に現地と深くコミュニケーションを取り、何としても事業を続けていきたい」と話している。（中原興平）

■「福岡市の半分」潤す

アフガニスタンで亡くなった中村哲医師と、現地の非政府組織「PMS」による用水路建設事業で潤う土地は、福岡市の面積の約半分に当たる。戦乱と干ばつに苦しむ現地の状況は、劇的に改善されてきた。

事業は2003年、アフガン東部ナンガルハル州を流れる大河クナール川沿いで開始。「真珠」を意味する「マルワリード用水路」を新設し、その後も住民らの要望を受けて取水堰（ぜき）の整備を行ってきた。資金面でPMSを支援するペシャワール会によると、事業で潤った土地は約1万6500ヘクタール。約60万人が恩恵を受けているという。

事業は治安の回復にも貢献している。15年に国際協力機構（JICA）が行った調査では、住民の8割以上が「事業を通して治安が良くなった」と回答。水や食物不足が改善され、生活が安定したことが要因とみられる。

「悔しくて仕方ない」「一緒に仕事、人生の宝」中村哲さん銃撃死 今も慕う人びと

毎日新聞 2019年12月5日 12時14分(最終更新 12月5日 13時44分)



地図を示してアフガニスタンの干ばつ状況を説明する中村哲さん＝福岡市中央区春吉1のペシャワール会事務局で2018年11月16日、中村敦茂撮影

長年にわたって人道支援に取り組んでいたアフガニスタンで

4日、武装集団に銃撃されて亡くなったNGO「ペシャワール会」（福岡市）の現地代表で医師の中村哲さん（73）。用水路建設など戦乱と干ばつで混乱が続く地で復興に力を尽くし、一人でも多くの人たちの命を救いたいという情熱に触れてきた人たちからは無念の思いがあふれた。

キリスト教徒の中村さんが中学時代から通っていた福岡市東区の香住ヶ丘バプテスト教会。名誉牧師で全盲の藤井健児さん（88）は「悔しくて仕方ない」と突然の悲報に声を落とした。

中学生の頃から交流のあった藤井さんの自宅を何度も訪ねて話し込んだ中村さん。高校生のある日、「先生も目が悪いのに頑張っているから僕も社会のために頑張りたい」と話し、「世のためになる仕事をするために医学部に進みたい。将来は海外で人の役に立つ仕事をしたい」と打ち明けたという。

昨夏は目が不自由なキリスト教関係者約50人が福岡市のホテルに集まり、中村さんの現地報告を聞いた。藤井さんは「危険な場所での活動にも、周囲を不安にさせないように『そげん心配せんでよか』と明るく話していた。『乾いた地に水が流れ出すと、チョウチョが乱舞し、子供たちが水遊びする』と楽しそうに話していて、目が見えない私もその光景が見えるようだった」と声を詰まらせた。

ペシャワール会の会員、荒野一夫さん（72）＝大津市＝は4日、知人からの電話で中村さんが亡くなったことを知って絶句した。

京都市職員だった2001年12月に講演を聞いて中村さんに憧れ、退職して06～07年にアフガニスタンに行き、調理担当として中村さんと9カ月間寝食を共にした。用水路の建設で中村さんは多忙を極め、一緒になるのは食事くらい。「ミーティングではぼそぼそと冷静に話す、誰一人背筋を崩さない。それほどオーラがあった」と振り返る。

ある夜、用水路の設計をする中村さんに話しかけると…
残り539文字（全文1342文字）

卑劣なテロ、断固非難 中村医師銃撃で菅官房長官

時事通信 2019年12月05日 12時43分

菅義偉官房長官は5日の記者会見で、アフガニスタンでNGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師が銃撃され死亡したことに関し、「痛恨の極みだ。今回の卑劣なテロは許されるものではなく、断固非難し、今後とも政府として日本人の安全確保に全力を尽くし、アフガニスタンの平和と発展のために引き続き貢献したい」と語った。

菅氏は、日本の警察当局による捜査を検討するか問われ、「外務省と警察庁を含む関係機関が連携をして情報収集に努めているところだが、今後の具体的な対応を現時点で答えることは控えたい」と述べた。

中村哲医師の足跡「100の診療所より1本の用水路を」

NHK 12月5日 18時43分



銃弾に倒れた中村哲医師が伝えたかったことは？

アフガニスタンで銃撃されて亡くなった医師、中村哲さん。「100の診療所より1本の用水路を」と訴えた活動の足跡をたどります。中村さんが所属する福岡市のNGO「ペシャワール会」の活動報告などによりますと、中村さんは、1984年にハンセン病治療のためパキスタンで医療活動を始め、1991年には、アフガニスタンで初めて診療所を開設しました。

しかし、2001年から始まったアメリカによるアフガニスタンでの軍事作戦などの影響で、現地での医療活動は大幅な縮小を余儀なくされたということです。

さらに、この頃、アフガニスタンでは干ばつが悪化し、水不足による栄養失調や感染症が急増。このため中村さんは、医療活動と並行して井戸を掘る活動を始め、2006年までに飲料用の井戸およそ1600本と、かんがい用の井戸13本を掘ったということです。

さらに、干ばつで被害を受けた農村の復興を目指し、2003年から用水路の建設も始めました。

最初に取り組んだ東部ナンガルハル州の「マルワリード用水路」は、2010年に25キロが開通してその後2キロ延長され、およそ3000ヘクタールの土地をうるおしているということです。

この用水路が通ったスランプール平野では、工事前の2003年には、農業用地が砂漠のように荒れていましたが、ことし7月の写真では、木々が生い茂る緑豊かな土地に生まれ変わっています。中村さんはまた、アフガニスタンの川に取水ぜきを建設する工事にも取り組んできました。

この工事は、福岡県朝倉市に江戸時代に設けられたかんがい設備、「山田堰」がモデルとされ、近代工法ではなく伝統的な工法を用いることで、現地の人たちが建設や維持管理などを行えるようにしたということです。

ペシャワール会は、中村さんの活動によって、これまでに、福岡市の面積のほぼ半分に相当するおよそ1万6500ヘクタールでかんがいが行われ、65万人の生活が維持されているとしています。最新の会報には…

4日付けで発行されたばかりの「ペシャワール会」の最新の会報で、中村さんは「凄まじい温暖化の影響」と題して、次のように記しています。

「猛烈な勢いの砂漠化に抗して、今はとにかくこの希望を守り育てるべきだと考えています」

「依然として『テロとの戦い』と拳を振り上げ、『経済力さえつければ』と札束が舞う世界は、砂漠以上に危険で面妖なものに映ります」

「とまれ、この仕事が新たな世界に通ずることを祈り」

「来たる年も力を尽くしたいと思います」

「2019年12月ジャララバードにて」(※原文で日付は漢字表記)

“戦争をしている暇はない”

NHKは、ことし10月、アフガニスタン東部ナンガルハル州で農業用水路を視察する中村さんの様子取材しました。

この時の映像には、中村さんが警備員に同行されながら、地元の長老らと話し合ったり、みずから重機を運転して作業したりする様子が記録されています。

中村さんは「アフガニスタンでは温暖化の影響で農地が乾燥し、年々失われて、食料が少なくなり、深刻な事態になっている。私

は医療関係者だが、薬だけでは人々の健康は守れない。清潔な水、それから十分な食べ物を確保するために、かんがい事業が欠かせない」と活動の意義を強調していました。

そして、「子どもたちや孫たちによりアフガニスタンを残すこと、それがいちばんの課題だ。この国にできるだけ緑を増やして砂漠を克服し、人々が暮らせる空間を広げたい」と、アフガニスタンの将来への思いを語っていました。

また、「世界中の人たちが、アフガニスタンの深刻な状態に目を向けることが大事だ。お金はもちろん必要だが、それだけではない。先進国がしっかりと現地の事情をくみ、誠意をもって取り組むことが大事だと思う」と述べ、国際社会に対して、粘り強い支援を呼びかけていました。

インタビューの最後で、中村さんは、アフガニスタンへのメッセージとして、「アフガニスタンは40年間ずっと戦争が続いているが、いまは戦争をしている暇はないと思う。敵も味方も一緒になって国土を回復する時期にある」と述べ、アフガニスタンの国民が力を合わせて復興に取り組むべきだと訴えていました。

自著に「照一隅」のメッセージ

中村さんは、たびたび沖縄を訪れて講演を行い、ことし9月に西原町で開かれた講演会では、およそ180人を前にアフガニスタンでの活動を報告しました。

この際、中村さんは自分の本にサインをして、「照一隅（いちごうをてらす）」というメッセージを残しました。

自身が置かれた場所で、一つのことに最善を尽くす、という意味です。

長年、アフガニスタンに赴き、医師としての活動の枠を越えて、用水路を建設するなど現地の人たちに寄り添い続けてきた中村さんが、講演などで繰り返し伝えてきたことばです。

講演会を主催した沖縄キリスト教学院平和総合研究所の内間清晴 所長は、「自分の価値観を他人に押しつけるのではなく、現地の人の考えに寄り添い命を大事にするという姿勢が沖縄の“命どう宝（ぬちどうたから）”の精神と共通すると思いました。彼の魂や志を引き継げるよう、われわれも何かできないか考えていきたいです」と話していました。

九州大学学長「自分なりの信念を持っていた」

中村医師は昭和48年に九州大学医学部を卒業し、平成26年からは、九州大学高等研究院の特別主幹教授として、年に1回の講演会などで学生や市民に自身の活動などを報告していました。訃報を受けて九州大学は、5日緊急の会見を開き、中村医師と医学部で同級生だった久保千春学長が「自分の思ったことを実行する強さに非常に感心していました。医師として、人間としてどうあるべきか、自分自身の考え方を振り返らせられる人だった」と述べ、「医学部の学生だけでなく多くの人に大きな影響を与えました。大学や学生にとっても誇りで、中村医師のような志を持つ人が今後も出て来ると思います。大変貴重で大事な人を失い残念です」と話しました。

久保学長は医学部3年生の頃、鹿児島県の大隅半島の医師が少ない地域へ中村医師とともに赴き、ボランティアで診療活動を行ったエピソードを披露しました。

そして、「中村医師は学生時代から穏やかだったが、自分なりの

信念を持っていた。医療的に恵まれない人に何らかの活動をしていきたいという姿勢は昔から変わっていない」と話し、最近ではことし10月に開かれた医学部の同窓会で偶然再会し、「今後も大学で若い人たちにいい講演を続けてほしい」と依頼していたということです。

中村医師しのび国内外から追悼の声

NHK2019年12月5日 15時50分



混乱が続くアフガニスタンで襲撃され死亡した中村哲医師。長年現地で用水路の整備や農地の再生などに力を尽くしてきた功績をしのび、国内外から犯行を非難する声とともに追悼の声が上がっています。

国連「無分別な暴力行為」

国連のデュジャリック報道官は、4日の定例記者会見の冒頭、声明を読み上げ、「われわれは人々の尊敬を受けていた中村哲氏の殺害を非難する。アフガニスタンでもっとも弱い立場にいる人々を助けることに人生の大半をささげた人間に対する無分別な暴力行為だ」と述べて、中村さんの功績をたたえとともに殺害を強く非難しました。

報道官はさらに、アフガニスタンでは、UNDP＝国連開発計画のスタッフが先月首都カブールで殺害されたことに改めて言及し、2日、国連アフガニスタン支援団の山本忠通事務総長特別代表が政府の治安責任者に面会し、人道支援関係者の安全確保に万全を期すよう要請したばかりだったことを明らかにしました。

母校では黙とう



福岡県古賀市にある中村さんの母校の古賀西小学校では、5日朝、授業の前に全校放送で中村さんのこれまでの活動や取り組みなどが紹介されたあと、子どもたちが黙とうをささげました。

古賀西小学校では、平成18年にNHKの番組で中村さんが訪れたことをきっかけに、子どもたちが毎年、「ペシャワール会」への募金を行っていて、4日も募金活動を行っていたということです。

募金活動に参加していた6年生の男の子は「人が苦しんだり、困っていたりしたら助けてあげることを中村さんから学びました。中村さんのように、人の心を少しでも温められるような大人になりたい」と話していました。

阿部勝校長は「中村さんが亡くなったことを知って、泣いている子もいました。これからも中村さんの活動や、人のために尽くすことのすばらしさを子どもたちに伝えていきたい」と話していました。

一方、中村さんの自宅がある福岡県大牟田市の関好孝市長は、4

日夜、「アフガニスタンの復興と平和に大きく貢献した中村医師は、大牟田市民の誇りです。ご冥福をお祈りします」というコメントを出しました。

地元資料館に遺影が飾られる

中村さんにゆかりのある北九州市若松区の資料館には、遺影が飾られました。

中村哲さんは、北九州市若松区出身の芥川賞作家、火野葦平の思い出で、若松区には火野葦平の資料館があり、中村さんも幼いころ、若松区に住んでいました。

火野葦平資料館の坂口博館長(66)は中村さんのいとこの玉井史太郎さん(82)と話し合い、5日午後、資料館の一角に中村さんの遺影を飾りました。

遺影は、中村さんが、ことし8月に若松区で講演したあとに撮影された写真です。

坂口博館長は、「こういう形で写真を飾りたくはなかった。特に若い方々に若松と中村哲さんの縁を知ってもらい、どのような形でもいいのでその志を継いでもらいたい」と話していました。

アフガニスタン人から悼む声

日本国内に住むアフガニスタン人の間では悲しみが広がっています。

アフガニスタン東部のナンガルハル州ジャララバード出身で、佐賀県多久市で貿易会社を営むルジー・ハーンさん(46)は「中村さんが用水路などを整備してくれたおかげで畑ができて、コメや野菜を作ることができるようになった」として、中村さんの活動をきっかけにふるさとの暮らしが大きく向上した、と感謝の言葉を述べました。

そして、ルジーさんは「中村さんは現地の人から『カカムラ』さんと呼ばれている。カカはパシュトゥ語で『おじいさん』という意味で、みんな家族や親戚のように慕っていました」と話していました。

SNS上には、アフガニスタンで使われているダリー語やパシュトゥ語で中村さんの死を悼むメッセージが数多く投稿されていて、ルジーさんによりますと「街や通りに『中村』という名前をつけたい」といった投稿もあるということです。

ルジーさんの息子のジッシャン・ハーンさんは「1度、アフガニスタンで中村さんに会いました。あれが最後だったと思うと悲しくなります。残念のひとつです」と中村さんの死を悼んでいました。

自宅がある福岡県大牟田市では

中村さんの自宅がある福岡県大牟田市でも、中村さんを悼む声が聞かれました。

市内で人形の販売店を営む沖牟田龍雄さん(74)はおよそ20年前にペシャワール会の会員になり、アフガニスタンでの中村さんの活動を紹介する資料展や写真展を開いて支援してきました。

沖牟田さんは、来年8月には市民の有志とともに、地元で中村さんの講演会を開くことを計画していたということです。

沖牟田さんは「死亡は誤報であってほしいと祈りましたが、残念でなりません。中村さんは闇夜に明かりをともしような存在でした。彼が行ってきた仕事を次につなげてほしい」と話していました。

稲嶺元沖縄県知事「語り継いでいかなければ」

中村哲さんが所属する福岡市のNGO「ペシヤワール会」には、17年前、平和への貢献をたたえる第1回目の「沖縄平和賞」が沖縄県から贈られました。

授賞式で中村さんに賞を贈った当時の沖縄県知事、稲嶺恵一さんは、「中村さんは自分を犠牲にして貧しい人のために全力を尽くしたと思います。人に対する思いに満ちあふれた本当に立派な方で、私も心から尊敬していました」と振り返りました。

そのうえで、「平和に対する心、思いやりの心を持つ中村さんの行動を見ていたら誰もが共感すると思います。こういう方がおられたということを語り継いでいかなければならない」と話していました。

NGO代表「思いを引き継いで活動」

中村さんが所属するNGOの唯一の支部は名古屋市内にあり、東海や北陸地方などの支援者に会報を送ったり、アフガニスタンの現状や中村さんの活動を伝えたりする活動を行っています。

20年ほど前、アフガニスタンの支援をきっかけに中村さんと知り合い、その熱意に感銘を受けて支部を立ち上げたという代表の五井泰弘さんは、突然の中村さんの死に深く心を痛めています。五井さんは「中村さんは静かな方ですが、アフガニスタンと、そこに住む人々を愛し、復興を目指して心に強い意志を抱いていました。2年前に会ったときは『現地の人たちも育ててきた。彼ら自身で復興させてほしい』と、託そうとしていただけに、痛恨の極みで本当に残念です」と話していました。

そして、「ちょうどあす（6日）、中村さんの手記などを載せた会報の最新号を受け取って発送する予定でした。中村さんの代わりはできませんが、思いを引き継いで活動を続けたい」と話していました。